

山下フログ・RUNRUN日誌より

◆自立支援法で障がい者は困っている (9/25)



午前中、自立支援法の見直しを求めて市役所行動があり参加。参加団体が次々アピール。一割負担を障がい者に押し付け、自立を阻害する法律。これでは障がい者の社会参加を後退させ、家庭に閉じ込めてしまうのは明らか。この法に最後は反対したものの途中まで自公と一緒に賛成したのが民主党。いつものことながら定見がない。午後は意見書について元気市民で相談。夜は党の府本部執行委員会。

◆趙博さんがヨイトマケの唄を歌う (9/23)

私が初めて聞いたのは中学の頃で当時はヨイトマケが何を意味するのか分からなかった。ただ子どものために男に混じって汗して働く母親と、それに励まされた子どもががんばる唄であることは分かった。いっぱい差別を受けながらもたくましく成長した子どもが母親の働く姿を回想し感謝と誇りに思うストーリーに共感を覚え、この唄が好きになった。美輪明宏さんの歌もいいが趙博さんの唄もなかなかいい。今日はピースあいの結成 10 周年記念として趙博さんのコンサートが企画されていた。終了後、懇親会に参加。なお午前中から午後は玉島球技大会に参加した。



◆古い自民党も新しい自民党（民主党）もお断り (9/21)

自民党が「民主党は古い自民党で、私たちは新しい自民党」と総裁選挙で宣伝したような。どっちが古いか新しいかはどうでもいいが、民主党は財界べったり、改憲、愛国心強制、防衛省昇格、小選挙区制、政党助成金・・・と自民党と一緒に。顔が変わるだけだから「民主党も自民党」はあたっている。新総裁に選ばれたのが三世のボンボン、祖父も親父も議員がうりの安倍。彼の思想はカビが生えそうな陰々滅々の皇国史観、新しさなど皆無である。新しければ良くて、古ければだめという浅薄さ、支離滅裂な論理になびく国民に自民党は舌でも出しているに違いない。

普通の市民は古かろうが新しかろうがいいものはいいのであって、ダメな自民党は古かろうが新しかろうがお払い箱なのである。

民主党は財政からも政党助成金(国民の税金から議員 1 人当たり 4 千万円)におんぶに抱っここのあかんたれ政党である。民主党の公約は社民党がようやく議席を手にかけている衆院比例区の定数削減なのに、社民党が民主党にすり寄るのは自殺行為そのもの。だめな自民、

民主、公明の議席がなくなって困るのは財界だけで普通の市民、庶民ではない。これらへの一票は社民、共産つぶしにつながる。社民党や無所属市民派の支持者はすっきりしないかもしれないがより近い共産党を選ぶのが正しいのである。

◆竜仙峡まで走りました (9/17)

午前中は公民館とPTAが合同で開催する球技大会に参加。昼から大岩郵便局を考える会のメンバーと車作のゴンゴンファクトリーでバーベキュー。平田台から現地まで約13k、時間にしてちょうど1時間半走って到着。道幅が狭くすれ違う車に気を使うコースだ。午後3時ぐらいまで溪流釣りや職場の話など呑んで食べて楽しむ。道路を隔てて役所のSさんが文化展に出品する作品に取り組んでいろいろとお話を伺った。台風の影響で雨が降り出す頃、阪急バスで茨木市駅まで帰る。



◆議員は質問の準備に時間をかけているだろうか (9/15)

「新社会」の配布と集金。配りながら読者である市幹部と世間話。文教人権の委員会が終わった後だけに自然と話は委員の質問の話になる。「〇〇委員の質問はもっともな指摘で考えていかなあかんとおもいますが、〇〇委員の質問はどう答えていいのかわかりません」と正直な感想を話してくれる。

質問の準備に時間をかけたか、その場の思いつきかは答弁側、同席議員、傍聴者もすぐわかる。考えの違いはとやかく言わない。ただ発言の整合性がない浅薄な質問を聞いていると、有権者が怒るだろうな、そのうち思慮不足からくる珍論奇論の特集でもHPに載せようかと思ってしまう。ただそう思いながらも、私自身もっと時間をかけて練り上げなければと自省している。

◆愚直に大阪駅で歩んできた国労の仲間たち (9/8)



大阪駅で不当労働行為による1047名の解雇に反対する宣伝行動に参加。キャラバンもここを出発して吹田、茨木、高槻を経て京都に入る。国民の足を守り、安全を確保するために最もがんばってきたのが国労である。自民党はその国労をつぶすことによって総評をつぶし、社会党を壊してきた。JRは国労組合員を差別し解雇して合理化を推進、利潤を追求してきた。その結果が尼崎で107名の命を奪った脱線事故である。国鉄を愛し愚直なまでに安全性を守るために闘ってきた人たちを孤立させてはならない。いくら少数派になろうともがんばっている人がいる限り応援したいし、本当のことを言い続けたい。